

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	政治学研究科 政治学専攻 修士課程《外国人》	2026年度 秋季
専門科目		

《解答又は解答例》

- 問1 日本政治における参議院の持っている意味や機能について問うものである。参議院の「第二院」としての地位、それに伴う衆議院の優越といった基本に加え、解散なしの三年ごとの半数改選といった選挙の固定サイクルや、一人区、中選挙区、比例代表制が混合した選挙制度のありかたを押さえたうえで、単なる「中間選挙」的なものにとどまらず、日本政治の中長期的な深層構造を規定する重要性をもっていることや、1993年以来の政治改革がもつぱら衆議院の選挙制度改革にとどまったことで、衆参の選挙制度の「ズレ」が生じていることにも触れているかどうかのポイントである。
- 問2 1955年以來、ほとんどの時期において日本政治の主役であった自由民主党とはどのような政党であるか。(1) 成立の経緯や、(2) 組織の特徴、(3) 日本政治のなかでの位置づけについて問うものである。(1) については、冷戦構造のなかで半ば他律的に強いられた保守合同によって成立したこと、(2) そうした経緯からして(また戦前以來の由来もあり) 極めて分権的な構造であったこと(いわゆる派閥政治)、(3) それにもかかわらずそうした内部的柔構造をうまく活用しつつ包括政党として長く一党優位体制を維持し得たことが記述できているか。1993年にそうした構造がいったんご破算となり、選挙制度改革を伴う「平成デモクラシー」が志向され、従来の構造が徐々に崩壊していく過程が記述できているかといった点がポイントである。

《出題の意図》

- 問1 日本政治における参議院の持っている意味や機能について問うことで、日本政治を分析する上で踏まえておくべき基本的な制度を理解しているかどうかを試している。選挙制度の種類とその効果、また二院制の構造的な特色とその効果についての政治学的な知見を踏まえているかどうかについても見ることができる。
- 問2 自由民主党とはどのような政党であるかを問うことで、日本政治史についての基本的な知識の有無を試している。とりわけ、戦後の政治史を規定して来た東西冷戦構造のなかでのイデオロギー的分極化についての知識、また「55年体制」を特徴づける「派閥政治」の基本的な構造やその意味について踏まえているかどうかも見ることができる。